

# 抵抗性アカマツ「播磨の緑」

## 1. マツノザイセンチュウに対する抵抗性アカマツ選抜の経緯

- ① 昭和55年、兵庫県加西市の松くい虫激害地で生存していた複数のアカマツから枝を採取し、接ぎ木により苗木育成。
- ② これら接木苗にマツノザイセンチュウを接種検定したところ、10系統は、テーダマツ(抵抗性が高いことで知られる)よりも高い生存率を示した。
- ③ 昭和58年、この10系統の苗木を森林林業技術センター緑化センター内に植栽し、その後20年間、自然条件下で抵抗性を調査。
- ④ その結果、他の品種はほぼ全滅状態になる中で、本品種のみが80%以上生存。同時に、親木も、現地で生存し続けていることを確認。
- ⑤ 以上のことから、本品種を「播磨の緑」と命名し、農林水産省に品種登録を平成16年に出願、平成19年に認可。



植栽した「播磨の緑」

## 2. 「播磨の緑」の特徴

- ① 緑化センター内に植栽した20年生時の樹高は11 m、胸高直径13 cm。
- ② 幹は通直完満。
- ③ 樹冠は端正な円錐形。
- ④ 樹皮は赤褐色で比較的平滑。
- ⑤ 針葉は濃緑色で柔らかい感触。

## 3. 「播磨の緑」の用途

- ① 接ぎ木増殖のため、母樹と同一遺伝子を持つアカマツ苗木であり、親木の持つ抵抗性を完全に継承。
- ② 「播磨の緑」は、風致や景観的な価値、県民の憩いの場として、高い抵抗性が求められる景勝地や都市公園等への導入が望ましい。
- ③ 品種登録は、採種園実用化の目途が立ったため、平成28年に継続中止。平成29年から接ぎ穂の提供開始。



「播磨の緑」採種園